



YOSHINO ACTIVATION PROJECT

Planner

近畿大学 建築学部 建築学科
地域マネジメント研究室

平成27年9月1日
シンポジウム

これまでの経緯

地域マネジメント研究室は、2012年から毎年夏にゼミ合宿で吉野を訪れています。
合宿中のゼミナールワークとして、森本邸活用方法を提案してきた経緯があり、この度具体化に向けた提案の機会を得ることになりました。

- 2012年 8月 第1回 地域マネジメント研究室 吉野合宿(1期ゼミ生)
- 2013年 8月 第2回 地域マネジメント研究室 吉野合宿(2期ゼミ生)
現地での視察・ワーク・活用提案
- 2014年10月 第3回 地域マネジメント研究室 吉野合宿(3・4期生合宿)
現地での視察・ワーク・活用提案
- 2015年 2月 近畿大学にて第1回 地域マネジメント研究室 4期生案発表会
- 2015年 9月 シンポジウム 現地公民館にて

今回の趣旨

- ・当初は合宿中のワークから始まった小さなプロジェクトでしたが、人と人がつながり色々な方にも関心を寄せていただけるようになりました。学生が考えた、まだまだ甘い提案。けれど若いからこそ考えられる、新しい可能性を秘めた提案。地域の皆さまに是非ご覧になっていただきたいと考えております。
- ・吉野の活性化を目的とした提案を考えてまいりました。私たちの提案が、少しでも地域に貢献できるものであれば幸いです。

地域マネジメント研究室とは

近畿大学 建築学部 建築学科にて、寺川政司准教授の指導のもと主に「まちづくり」に関して研究を行っている研究室です。

■ゼミ活動のポリシー

- ・人との出会いや繋がることが好きな事(行動力・フットワーク・好奇心)
- ・まちづくりとデザインに興味がある事(計画+設計)
- ・ひとやまちに「誠実」に関われる事

■主な活動

- ・実践フィールドを中心に、見学会・調査・ワークショップなどを実施するとともに、既往文献や視察等で分析し、事業を企画します。
- ・各フィールドでは、現実に進められている事業や課題への対応が求められていることが多いため、最終的には研究や企画などの成果を現場に返すことを目標としています。
- ・まずは、まちやひとを知ることからはじめ、様々な実践フィールドでの「出会い」を体感しながら、既成概念に囚われずに「縮尺」を超えた想像力を活用して社会的な課題や研究に関わる力をつけていきます。
- ・その意味で地域マネジメントとは、文系と理系、ソフトとハードをつなぎ止める実践的な分野でもあります。

コレクティブタウン研究

- ・まちの『居場所』研究
- ・シェア(協働型)居住の研究

社会関係資本(ストック)活用による地域の再価値化に関する研究

- ・リノベーションと居場所づくり
- ・条件不利地域、マイノリティ地域
- ・被災地復興支援

コミュニティ・アーキテクト研究

- ・アジアのコミュニティアーキテクト研究(Community Mapping)

主な研究テーマ

【協働型ハウジングとまちづくり】

コーポラティブ・コレクティブ住宅
シェアハウス→コレクティブタウン

【まち再生・再価値化のデザイン】

団地再生／戦前長屋地域／
商店街／中山間地・里山・漁村
被災地／社会的 条件不利地
域(マイノリティ・コミュニティ)

【エリアマネジメント研究】

京都駅東(芸大隣)・西成特区
地域通貨・コミュニティファイナンス

【ケア付きハウジングデザイン】

障害児家族のホスピス
レスパイトケア施設計画

【CAN in Asia】

アジアで繋がりはじめた
Community Architects Network
に関する研究

【その他】自転車とまちづくり など

目次

アウトドア

自転車班	…P4
サバゲ班	…P6

ユニット

ふるさと班	…P8
コンペ班	…P10

ゲスト

ツリーハウス班	…P12
---------	------



1. 自転車班

member 八重尾 中道 小副川 植田



Concept

本プロジェクトは、吉野に**新たな価値**を加え、既存の**地域の活動・魅力**と引き立て合わせるというプランである。

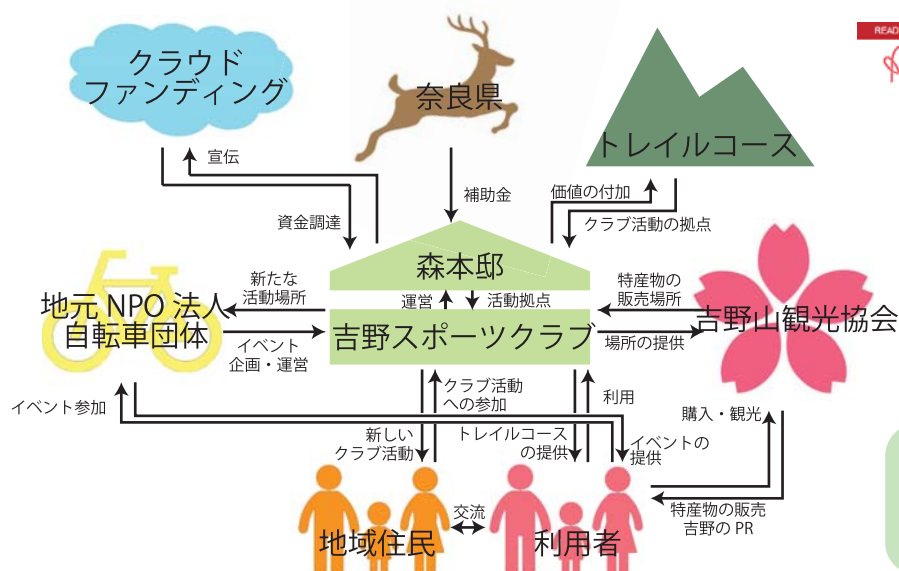
新たな価値＝MTBトレイルコース、森本邸
地域の活動・魅力＝地元NPO団体、地域の活動
 観光、特産物

トレイル利用者が吉野の魅力を知るきっかけになる
 地元NPO団体・地域の活動の活性化につながる

Target

マウンテンバイク経験者、初心者
 地域住民(クラブ活動として)

事業スキーム



クラウドファンディングによる資金調達



特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを指す、群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語である。ソーシャルファンディングとも呼ばれる。

日本では・・・
 1人当たり50万円を上限に、
 総額1億円未満の資本調達が可能。

奈良県吉野郡吉野町にマウンテンバイク専用のトレイルコースをつくり、吉野のまちの活性化に！というプロジェクトテーマで事業に必要な資金を調達する。

事業フロー

2016/4	5・6	7	8	～3	2017/3～
○山の開拓 ・コース上の木、雑草の除去 ・山道の整備	○木のコース作り ・コースの製作 ・材料の入手(木材、工具等)	○運営開始 (マウンテンバイク経験者向け) @森本邸・森本さんの山	・初心者向け体験型イベント開始 ・地元NPO法人(吉野山観光協会)と連携 ・レンタルサイクル	試用期間 ～	○コースの拡大 ・初心者、こども向けコース
準備期間		事業開始		事業拡大	
				今後の展望	
				○運営、管理の委託 ・観光協会から一般の事業主へ ○吉野のまちとの連携 ・マウンテンバイクを使った観光プラン ○空家の活用 ・コース、拠点を増やす ・森本邸をモデルとした事業展開 ○吉野でイベント、大会の開催 ・吉野をマウンテンバイクのまちへブランド化 ・マウンテンバイクのまちとして浸透、定着	

運営について(吉野スポーツクラブ)



トレイルコース、森本邸でのマウンテンバイクの活動を
吉野スポーツクラブが運営母体として行う。

受付 料金の支払い、保険・誓約書の記入、施設説明

場所の提供 自転車の整備、休憩、駐車場

維持・管理 コースの修繕、安全チェック

販売 特産品売り場として吉野をPR

吉野スポーツクラブさんのクラブの一つとして活動することによって、町外からのお客さんに限らず、**地域住民**の方にとっても参加しやすい活動となる。より地域に根差した活動が見込める。

吉野スポーツクラブについて

吉野スポーツクラブでは、町民の皆様のニーズを知ることから始めています。やりたい・やらせたいスポーツを子どもから高齢者までが行える環境づくりに取り組んでいます。

町民の皆様のニーズにあった教室・イベントの開催、継続的に取り組めるクラブ作りを連携できる団体・組織と相談しながら進めていきます。また町民の皆様の声が最大限反映していけるクラブと一緒に創っていこうと考えています。(引用)

吉野スポーツクラブへのヒアリング結果

- 自転車に関する活動について
→過去も現在も自転車関係の活動はない
レンタサイクルは一時期やっていた
- 新しくクラブを立ち上げることにについて
→**町外の学生**が立ち上げることも可能
(のちに地域に根差すものなら良い)
→**積極的に支援してください**とおっしゃっていた
(曜日や日時等を決めた定期的な活動)

地元NPO団体との連携

マウンテンバイク初心者の方がいきなりトレイルコースを走行するのは大変危険なので、地元NPOの自転車団体の協力を得て、マウンテンバイクに詳しい方と共に走行するプランを考える。

初心者の体験プラン

初心者の方はマウンテンバイクを所有していないと考えられるので、**レンタサイクル**を利用

初心者の方がトレイルコースを走行するのは危険

NPO法人の自転車団体の方に初心者向けのイベントの企画・運営を依頼

マウンテンバイクの乗り方、コースの走行方法を教わる



NPO法人sports cycling FABU project について

FABU projectは、広く一般市民を対象として活動しています。イベントやスクール等の事業の創成を行い、スポーツサイクリングの活用、活動の場を作る活動をしています。またサイクリストのスキルアップを図るとともに、誰もが手に届くスポーツサイクリングを普及促進し、地域のスポーツ振興に寄与することを目的としています。(引用)

NPO法人FABU project へのヒアリング結果

- もし吉野にトレイルコースを作ったら、**イベントを企画・運営**していただけますか?
→はい、大丈夫ですよ。
- その中で**子供、初心者向けの講習**をしていただけますか?
→はい、できますよ。

事業の展望

空き家の活用(拠点の拡大)

森本邸をモデルとし、空き家を利用したトレイルコース・拠点の拡大をする。空き家の活用や拠点間の連携で、より事業の拡大を図る。



イベント・大会の開催

有名なマウンテンバイクのイベントや大会の開催を招致し、吉野がマウンテンバイクが盛んなまちであることを外へ向けてはPRする。



Recommended Point

日本ではあまり見られないマウンテンバイク専用のトレイルコースを作ること、吉野をマウンテンバイクのまちとして全国に発信して、人を呼び込む!!

2. サバゲ班

member 大宮、慈幸、中土居



Consept

本プロジェクトは吉野町にサバゲフィールドを開設し吉野町の新たな魅力として打ち出すことを目的としている。サバゲを通して吉野町の豊かな自然を体感してもらいます。

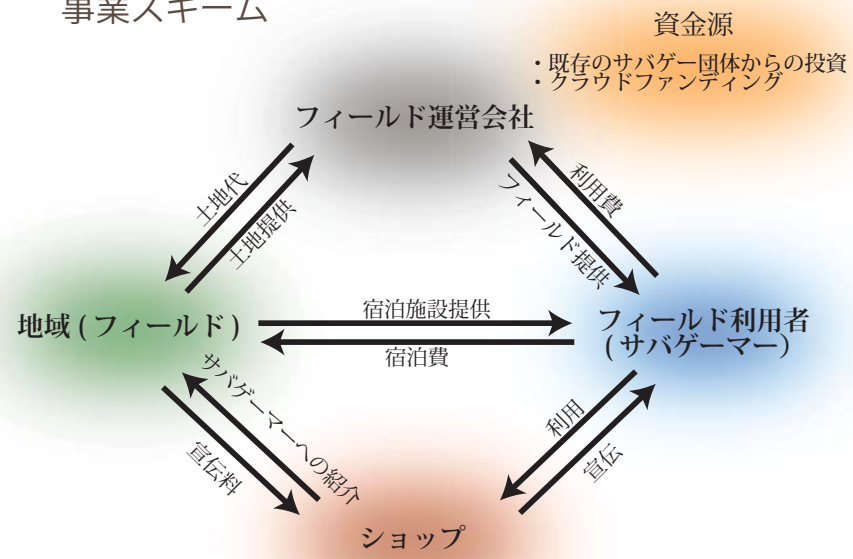
Target

サバゲーマー
サバゲに興味がある人
アウトドア好き
森で遊びたい人
吉野町を元気にしたい人

サバゲとは

サバイバルゲームはエアソフトガンを使用して撃ちあう、いわば大人の戦争ごっこです。遊び方は、フィールドと呼ばれる戦闘エリア内で、敵味方の2チームに分かれ、両陣にある敵の旗(フラグ)を取り合うのがもっとも一般的で、いわば陣取りゲームといった感じです。もちろん、エアソフトガンを使用しますので、敵味方入り乱れての撃ち合いになり、弾が当たったらそのプレイヤーは被弾(ヒット)した旨を自己申告(ヒットコール)し戦線離脱、セフティゾーンと呼ばれるフィールドの外へ退場します。制限時間内にどちらかがフラグゲットするか、チーム全員がヒットされ全滅するとゲームは終了します。

事業スキーム



事業開始	事業展開	今後の展望
フィールドづくり 奈良県のサバゲーマーに寄付を募る 運営開始 ホームページなどで宣伝 運営会社の設立	サバゲーマーを町に引き込む 空き家にショップ誘致 吉野町との連携 町の祭りなどともからめたい 協力してイベント開催	サバゲの聖地に 全国から人が訪れる場所に サバゲの町として有名に



ただいま人気上昇中!! 学生人気もNo.1

- 大人の趣味として人気上昇中
- サバゲ女子も急増中

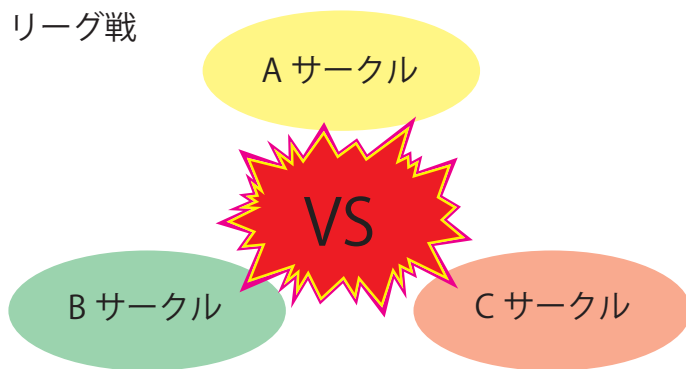
理由

ストレスを発散できる
サバゲーを通じて様々な人と交流できる
日常では味わえない緊張感やスリルを味わえる 等

- 授業でのプレゼンではサバゲ案が人気No.1でした
- 奈良県でもサバゲサークルが30チーム200人以上がプレーしている
- サバゲーフィールド内の設備も充実してきた

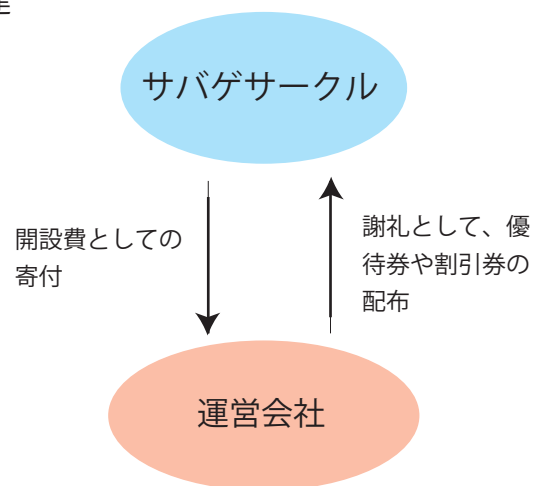
資金調達と集客システム

リーグ戦



サークルどうしでリーグを組み定期的にサバゲをしてもらう。年間をとして成績優秀チームには景品やフィールドのクーポンなどをプレゼント。

資金調達



Recommended Point !

フィールド

Point.1

吉野町ならではの川と山に囲まれたフィー

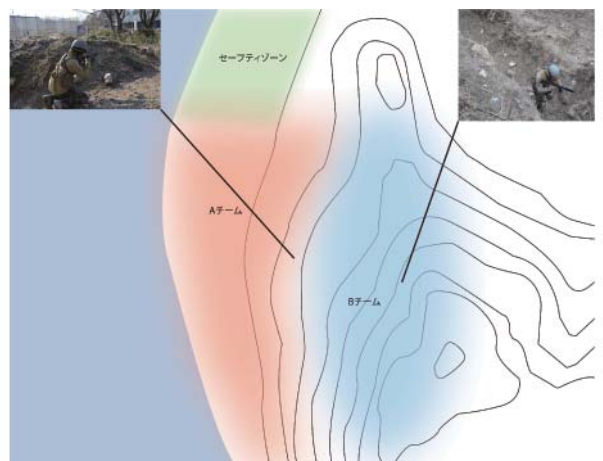
Point.2

自然だからこそ日々変化するフィールド

Point.3

森の癒し

吉野町の自然や地形を生かしたフィールドを自由自在にかけまわれ!!!!



3. ふるさと班

member 高橋、野澤、野口



Consept

ー吉野に第2のふるさとをつくるー

本プロジェクトは、簡単なログハウスキットを学生で設計し、それを用いてツアー客に自分たちでログハウスを作ってもらおう。

少しずつ増えていくログハウスで、村が形成されていく。宿泊施設として活用する。誰でも帰れる村をつくり、村民として吉野町に愛着を抱いてもらう計画である。

Target

建築系学生・子育て世帯
DIYが趣味の人 等

システム

タイムシェア別荘
・複数で別荘を共有
・利用したい時期の利用権を購入する

+

ゲストハウス
・1泊あたりの単価が格安
・食事等のサービスがない
・談話室等の共有スペースがある

別荘を誘致しても、1年のうち限られた日数しか人がこない。そこで、上記の2つの利点を組み合わせたシステムを構想。所有者が、利用時以外にログハウスを安価で貸し出すことによって、来訪者の増加を見込む。

村民とは

1度宿泊した人が登録したら、村民になることができる。登録料100円で、村民カードを発行し、住所登録をするとイベントなどのお知らせが届く。

村民(ツアー参加者)メリット

- ・安価でログハウスを持てる
- ・優先的に利用が出来る
- ・利益還元システム
- ・リノベーション後、割引あり

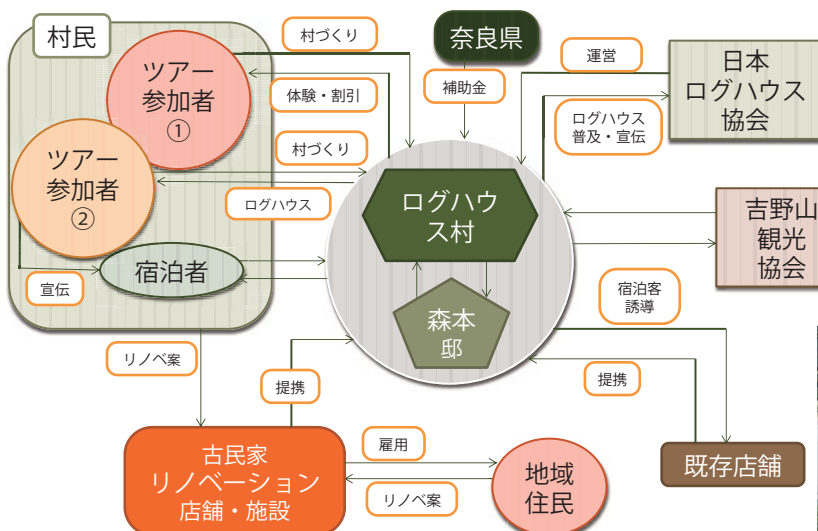
村民(宿泊者)メリット

- ・ログハウスに安価で宿泊できる
- ・リノベーション後、割引あり

事業スキーム

まち × 訪れる人の マッチング！！

本プロジェクトによって訪れる人と、まちの既存店舗や地域住民が関わりあえるような繋がり方を想定。



時間の流れ(システムの動き方)

村作りツアー(生活ユニット版)

建築系の学生等、ものづくりに興味を持った人がターゲット。ツアー参加時に村民登録でき、宿泊時や近隣の提携している商店で割引あり。

村作りツアー(ログハウス版)

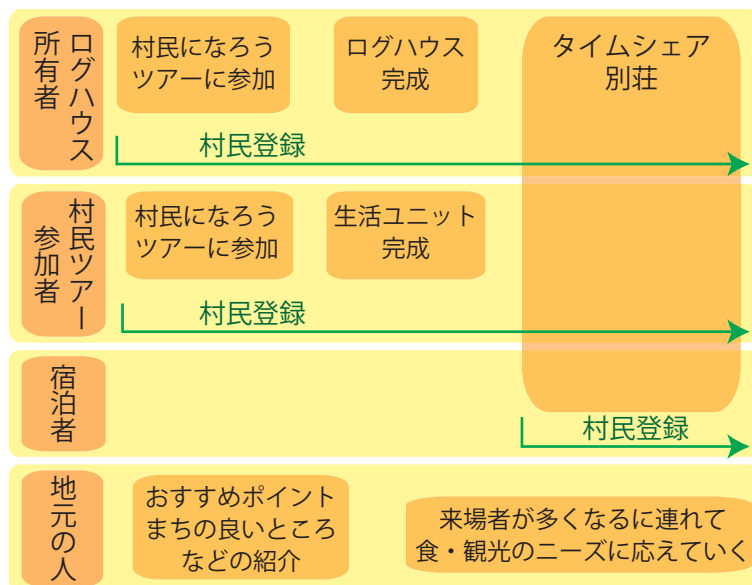
別荘、ログハウスがほしいと考えていた家族層がターゲット。建てたログハウスの所有者になることができる。ツアー参加時に村民登録できる。

村:宿泊施設運用

村を安価な宿泊施設として運用。宿泊客は村民登録をすれば、割引等のサービスを受けることができる。

空き家リノベーション

来訪者の増加によって、まちに新たなニーズが生まれる。地域住民・村民の案を用いて、空家を活用していく。



色々な立場で 色々な関わり方

村への関わり方に、色々な立場があるので自身に合ったやり方を選んでもらえる。宿泊して、吉野に触れてもらうことで、魅力に気づいてもらう。
自身のつくったものが吉野に建てられるので、1度だけの来訪で終わらない。

村民ツアー特典

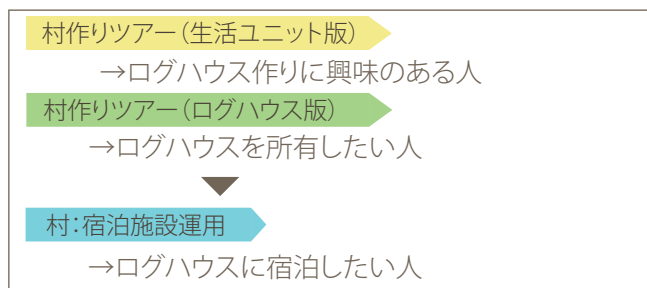
村作りツアーの参加者は30%OFFで宿泊ができる。村民になろうツアーの参加者は自分たちで建てたログハウスのみ、**割引有り**で宿泊ができる。



積立貯金制の割引があるので、**所有者自らのSNSやクチコミでの村の宣伝**が見込まれる。

狙いについて

来訪者(増) → ニーズ(生) → 魅力(増) → 来訪者(増)



…村の運営の安定・来訪者の増加
→ 食などのニーズが生まれる

空き家リノベーション

暮らしている中で村民・住民の「あったらいいな」を実現していく
→ 需要に答え、ココならではの魅力を村民・住人自ら作りあげていく

→ 食・案内・娯楽を満たす
→ 観光客が増加

ツアーや村民制度で、確実なリピーターを獲得し、村の運営の安定を図る。

はじめは、近隣の商店等と提携し、村で店の宣伝を行い村民が割引サービスを受けることができるようにしてもらう。

運営状態がある程度安定し、食・観光などのニーズが生まれてから空き家をリノベーションする。
(コミュニティ食堂・能体験施設・紙すき工房など)

ニーズに応じた施設をつくることで、過度なまちの変化を防止、また運営の安定を図る。

食堂などは地域住民の方に、週に1.2日などのやりやすい頻度で働いてもらうことによって、村民との触れ合いの機会を設けるとともに、まちでの雇用が生まれる。

ログハウスキット の設計

近畿大学建築学部 地域マネジメント研究室 × 協賛企業

キットは、民間企業で既に売られているものを使用するのではなく、近畿大学建築学部地域マネジメント研究室と企業で共同でデザイン・製作を計画していきます。
共有棟は20坪、宿泊棟は10坪前後の大きさを計画しています。

・オリジナルキットをデザイン・作成
・吉野で出た間伐材を使用

協賛企業候補
株式会社TALOインターナショナル様

Recommended Point

- ・多様な関わり方がある。
→ **参加**しやすい。
- ・「第2のふるさと」をつくる。
→ **愛着**がわく。
リピーターの獲得、**未来の担い手**獲得につながる。
- ・ゆるやかな段階を踏んだ変化。
→ 既存住民と来訪者の間にできやすい溝を、**時間をかけて**うめていくことができる。
- ・既存住民と来訪者の**要望重視**
→ **過度な変化・不必要な施設**の増加等の危険を**減少**。

4. 学生 隠れ家コンペ班

member 國本



■ 隠れ家宿泊施設のイメージ
(近代建築の名作、ノーマン・フィッシャー邸)

Concept

アクセスがあまり良くないことを逆にとり、“隠れ家”をモチーフとした宿泊施設を計画する提案。

また、建築学生向けのコンペティションを開催し、そこでの優秀作品の内の1点を実現することで、“隠れ家”ができる過程をもデザインする。

Target

初期段階：関西の建築学生、建築好きの人、
隠れ家みたいなのが好きな人

次段階：+ 全国の建築学生

次々段階：+ “隠れ家の名所”観光に来る人



■ Google Mapより。提案をする上で
“アクセスのしにくさ”は避けては通れない。

どのような提案に対しても「わざわざそれをしに来るのか?」といった疑問を生む“アクセスの悪さ”にまず着目し、この弱点をなんとか克服できないか、と考えた。

そこで、吉野の自然の多さから、アクセスにかかる時間 というものを
“ON/OFFを切り替える時間”であると捉えた。

その“ON/OFF”を切り替えた先に何があるのか、がとても重要である。
そこで私は、この吉野に“都会の喧騒から離れ、心身を癒やす隠れ家”を作って
はどうだろうかと考えた。

しかし、ただ隠れ家をモチーフにした宿泊施設があるだけではきっと上手く
いかない。そこで私は、建築学生が参加する設計コンペティションを実施し、
学生が設計した隠れ家を実際に建てるという手順を織り交ぜることによって、
“隠れ家”ができていく過程をもデザインしようと考えた。

提案としては、

- ・建築学生に向けた『都会の喧騒から離れ、自然の中で心身を癒やす“隠れ家”
設計コンペティション』を開催
- ・優秀作品の内1点は実際に建てられる
- ・木造であるものとし、吉野の銘木を使用する
- ・最終的には吉野を隠れ家の名所に?!



■ 図：某コンペティションの公開審査
学生が参加可能な実施コンペティションは非常に少ない

時間の流れ（段階ごとの状況）

初期段階(コンペ第1回)

- ・吉野を隠れ家の名所にしようの会 発足
- ・関西の建築系学部的大学生・専門学生
に向けたコンペの開始
- ・完成後、建築学生が設計した隠れ家と
いうことで多くの建築学生や建築好きが
見に/泊まりにくる。

第2段階(コンペ何度か開催後)

- ・コンペの範囲を関西から全国へ～
- ・次回 コンペ提出に向けて、敷地調査
に訪れた学生が隠れ家に泊まりにくる。
- ・いろいろなところで取り上げられ、建
築に興味のある人以外からも隠れ家の
名所として注目されるようになる。

最終的には…

直島のような、珍しい建物を見学してま
わりながら、その場所の魅力に触れるよ
うなところに。

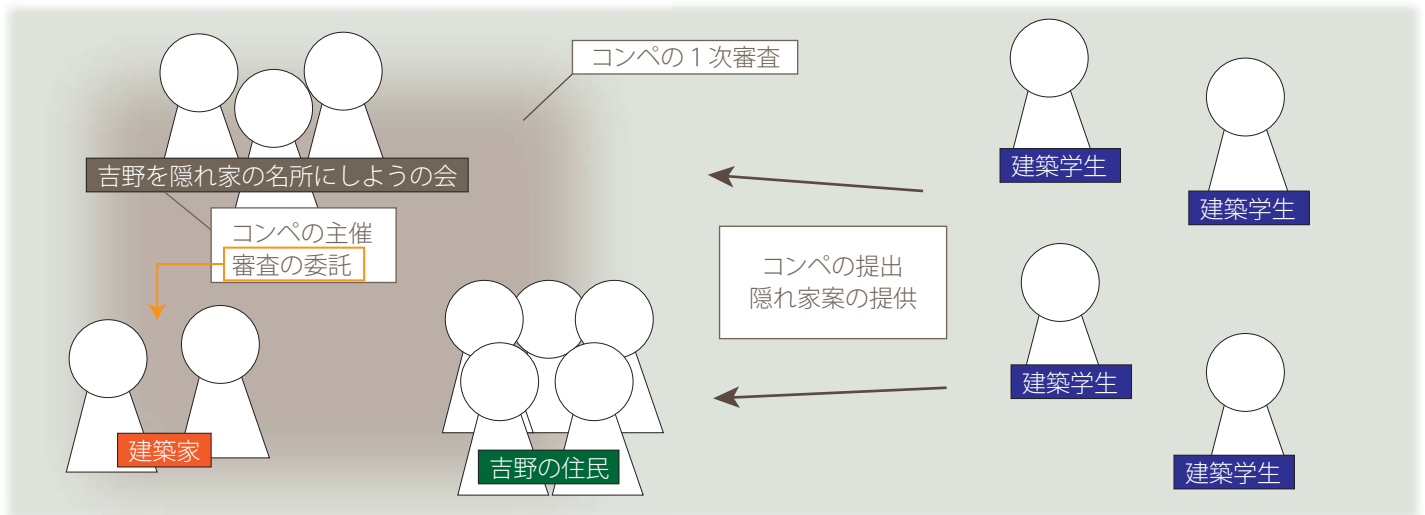


コンペティションの開催 など、運営について

吉野を隠れ家の名所にしようの会 の設立

吉野のまちをもっと魅力的にしたい!という人たちで、「吉野を隠れ家の名所にしようの会(仮名)」を設立します。会では、コンペの主催、建設後の隠れ家の管理などを行う。

隠れ家コンペの審査は、「しようの会」に加え・吉野の住人・建築家で行い、優秀作品に選出された作品のうち1点を、工務店等と学生が打合せながら実際に建てていく。



お金の流れ等について

主な収入源は、コンペの参加者からのエントリー料金、奈良県からの補助金。

また、建築系学部で大学教授などに向けて「吉野までの無料送迎バスチケット」を販売。それによって大学教授は自分の研究室の学生に実施設計の機会を与えることができるとともに、コンペの参加人数を増やすことにも繋がる。

その他

Q.コンペの敷地はどう用意するのか？

A.「名所にしようの会」に山を所有している人を頼る、自治体と提携し公有地を使わせてもらう、等々…

Q.コンペは何度行い、どの程度の規模のものを建てるのか？

A.毎年、隔年などで半永久的に行う。 隠れ家の規模は小さめを想定しており、最大でも前頁イメージ図くらいのもの。

Q.まちの人へのメリットはないのか？

A.「名所にしようの会」が管理のもと、宿泊客のいない時には、地域の交流拠点としての使い方が可能で、ちょっと集まったりする場所として無料で利用できる。

Recommended Point ! —この事業のメリット・効果—

- ・実施設計の機会がごく少ない学生に、その機会を与えられ、実践的な学習ができる。
(=「隠れ家」を考えてほしい側にとっても、「隠れ家」を考える側にとってもメリットがある)
- ・コンペの案の計画のために敷地調査に訪れ、その際に自ずとまちの魅力を発見し、そしてその魅力を引き出すための案が実現することで、**第三者的見地における魅力を増幅させることができる。**
- ・隠れ家が実際に建つと次回コンペに備えようと学生が訪れる。
- ・吉野の銘木を活かして計画することで、その魅力に触れられる機会を創出できるとともに、地場産業の活性化にもなる。

5. ツリーハウス班

member 吉川 前田 樋口



Concept

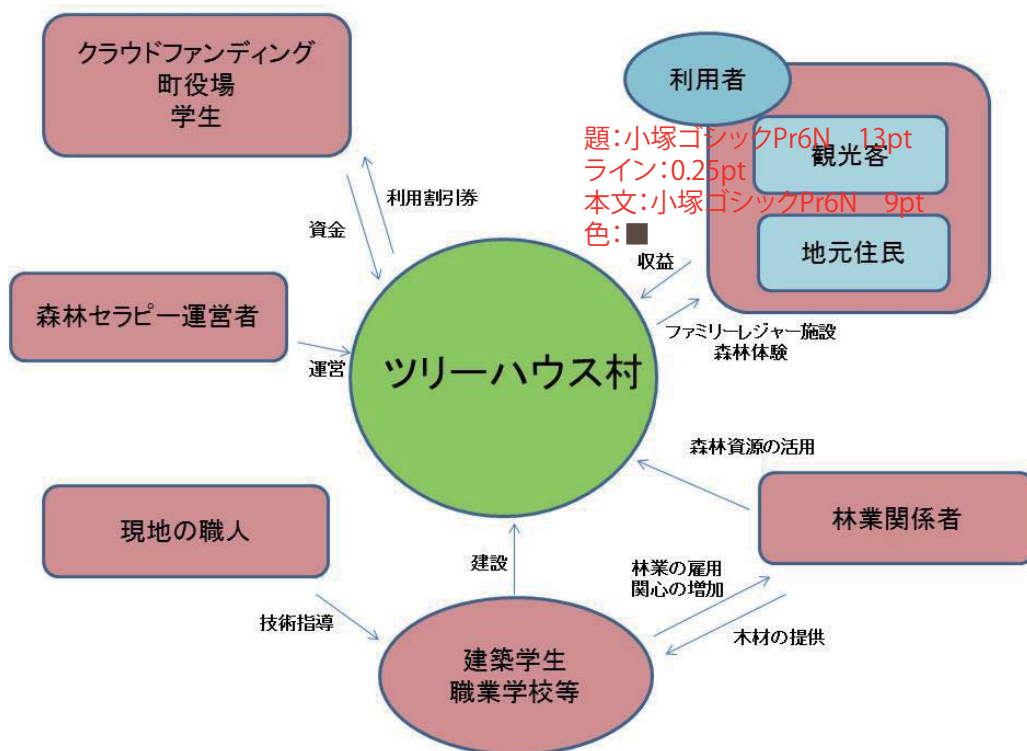
本プロジェクトは多種多様なツリーハウスを計画、山の資源を活かしたツリーハウスの村を作るというものである。子どもから大人まで森を楽しめる空間を作る事で森や自然材を肌で感じ親しみを持ってもらう。

Target

子育て世代・主婦・地元の
子ども達・建築学生 等

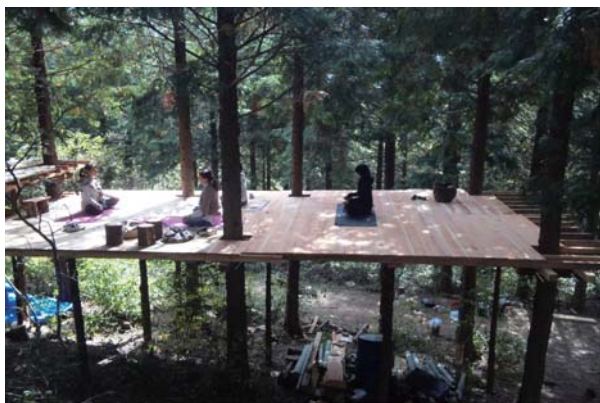
↑本文:小塚ゴシックPr6N 9pt
色濃い画像の時は:■
色薄い画像の時は:□

事業スキーム



時間の流れ(システムの動き方)

ツリーハウスの資金集め (2015年9月～11月)→ツリーハウス説明会 (2015年12月)→
ツリーハウス1機目建設 (2016年2月)→吉野町と意見交換会 (2016年3月～7月)→
ツリーハウス2機目建設 (2016年8月)→意見交換会 (2016年9月～2017年1月)→
ツリーハウス3機目建設 (2017年2月)→メンテナンス、イベント企画等 (2017年3月～)



様々な施設

アスレチック、森林ヨガ、宿泊等、様々な用途を兼ね備えさせる事により、様々な年齢層の方々が同時に遊べる場所を森に作る。ワークショップや夜のツリーハウスのライトアップを行い観光客誘致を図る。



吉野材を利用したツリーハウス

ツリーハウスに吉野材を利用する事によって地元の林業に貢献することができる。また、利用者に吉野材の質の良さを知ってもらうことで、多くの人に吉野材を知ってもらう。

若い学生が吉野でツリーハウスを通して林業に関わる事で吉野材に対する知識を深め、将来的に吉野材を活用できる人材を増やす。



Recommended Point !

ツリーハウスで森の資源を活用し吉野材の良さ、山の良さを知ってもらう事ができ、レジャー施設としても遊べる場所を作る事ができる。西日本ではツリーハウス施設は希少であり学生が企画しているという点でも注目されやすいと思われる。ツリーハウスメンバーも SNS やオープンキャンパスなどで認知度を上げる広報活動をしていく。

定期的な関わり

ツリーハウスのメンテナンス、ワークショップなど定期的に関わり、オープンキャンパス、SNS で広告しながら事業を拡大していく。

PLANNER

近畿大学 建築学部 建築学科
地域マネジメント研究室

准教授 寺川政司

4期生 北田優生
高橋一希
大宮風香
望田祈
國本卓也
野澤亜祐美
中土居壮哉
慈幸元哉
八重尾渉
小副川文太
平井杏奈
野口達
中道基樹
×崎裕香子
山本陽之

5期生 奥野祥斗
木村遼平
六嶋瞬
岡本明
豊川千尋
河本彩
藤田真子
上田有亮
福田友香子
森川雄樹
浅井駿平
今村栞路
原田悠

edit 高橋一希